

令和6年度第3回東海市子ども・子育て支援会議 議事録

1 日時 令和6年（2024年）10月31日（木）午前10時～午前11時30分

2 場所 東海市役所302会議室

3 出席委員（10名）

会長 中村強士、職務代理者 本多伯舟、古谷仁彦、平松由佳、近藤高史、樋上亜由美、川北夏代、鈴木信恵、田中博美、深谷里枝、

4 欠席委員（4名）

吉田未来、坂田弘毅、八澤佳子、田中薫

5 アドバイザー

宝達真志、宇野まゆ子

6 職務のために出席した職員

市民福祉部長 植松幹景、幼児保育課長 小島英泰、同統括主任 宇賀神雄也、健康推進課主任指導保健師 大串文子、学校教育課指導主事 加藤雅尚、社会教育課統括主任 浅井貴史、社会福祉課統括主任 井上綾、こども課長 永井直子、子育て支援センター長兼結婚応援センター長 能登谷宏美、こども課主幹 佐田知子、同統括主任 堤仁勇、同主任 田中恒輝、株式会社サーベイリサーチセンター 山村靖彦

7 公開、非公開の別

公開

8 傍聴者数

0人

9 会議日程

(1) 開会

(2) 協議事項

東海市こども計画の素案について

(3) その他

(4) 閉会

10 会議内容

(1) 開会

(2) 協議事項

東海市こども計画の素案について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただ今の説明について、質問、ご意見ございましたらお願いします。

(本多委員)

81 ページの家庭類型の表ですが、60 時間未満のパートタイマーの方も保育短時間認定がされると思いますが、これを「保育の必要性なし」と分けている理由を教えてくださいましたらと思います。

(事務局)

この 81 ページの記載の仕組みについては、国がニーズ量を算出する上での手引に記載している内容です。

(本多委員)

資料の 10 ページの人口推計で、就学前児童は穏やかに増加を見込まれていますが、就学児童は減っており、若干矛盾を感じましたが、その辺りはいかがですか。

(事務局)

人口推計につきましては、市の総合計画の数値を基に作っています。総合計画では令和 10 年までの人口は増加すると見込んでいます。その中で年齢別でみると、0 から 5 歳の就学前児童数は、出生数の増や転入などから増えていく見込みです。ただし、6 歳から 18 歳は減っていく見込みで、人口の体系も変わっていくというのが推計上のグラフです。

(近藤委員)

当日配布資料で「(3) 出生の状況」のグラフについて 2 つが一つにまとめられています。個人的には 2 つのグラフの方が見やすいと感じますが、計画自体にボリュームの制限はありますか。

(事務局)

計画を何ページで収めなければいけないというのはありません。今回の計画は、全体的にボリュームがあり、できる限り量を抑えたいという思いで 2 つのグラフをまとめましたが、「こちらの方が見やすいですよ」ということがあれば、参考にさせていただきたいので、教えていただければと思います。

(古谷委員)

7 ページの「(3) 計画の対象」で「0 歳からおおむね 20 歳代」と書かれていますが、57 ページ以降の具体的な関連事業の方向性では小学校ぐらいまでの話が多く、新しく名前が変わった計画となった割には、今までのものとあまり変わらないのではない印象ですが、どうでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通り、小・中学生ぐらいまでのボリュームが大きくなっています。新しい施策としては、基本目標 5 で若い世代向けの施策がありますが、現状、市の事業で載せられるものが少ないというのが現状で、今後、整理が必要と考えています。

(古谷委員)

全体的に支援が必要なこどもには「こういうことをしていけないといけないね」と書かれていますが、普通の子ども、8 割、9 割ぐらいのこども達に対しての具体的な育成や支援についての関連事業や、教育委員会との関連性が少ないような気がしますその辺りはどうでしょうか。

(事務局)

多くは支援の子も含めた皆さんに対する事業と思っています。教育委員会との関連については、学校の中での教育の部分はこの計画では触れていません。それ以外の活動で、体験教室や放課後児童クラブ、子ども教室等を掲載しています。

(田中委員)

94 ページの「(16) 児童育成支援拠点事業」は全部数字が「0」になっています。これは見込み量や提供量はまだ出せないということですか。どのような方向なのか教えてください。

(事務局)

「児童育成支援拠点事業」は令和 4 年児童福祉法改正により、地域子ども・子育て支援事業に位置付けられた事業の一つですが、量の見込み等の算出が難しく、このように掲載しておりますが、計画期間中の目標が「0」というのも違和感がありますので、市としての方向性を含め、検討してまいります。

(田中委員)

「(19) 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）」で、令和 8 年に「3 人日」という書き方がしてありますよね。これは 1 日に 3 人受け入れるということですか。

(事務局)

市内で1日3人受け入れるということです。

(会長)

受け入れる保育園は1か所ですか。1日3人受け入れる場所はどこか特定の保育園ということですか。

(事務局)

特定の保育園ではなく、市全体で「こども誰でも通園制度」の枠としてどれだけ提供するかを記載しております。

(田中委員)

民間も含めてですか。

(事務局)

民間も含めてです。

(本多委員)

この見込みだと少なすぎないかと思いましたが、量の見込みはどのように算出していますか。

(事務局)

就学前児童数から保育園に入っていない人数をベースに、国の定める算定式を基に算出しております。

(本多委員)

令和7年度に数字が入っていないのはどうしてですか。

(事務局)

市としては令和8年度からの事業開始を予定しております。

(平松委員)

30 ページにこどもの意見が掲載されており、そのあとに様々な施策が掲載されていて、わかりやすいと思います。たくさん意見を掲載していただけたと言ったことが「市役所の人にも伝わっているのだな」と思い、一般人としては「ここを見ようかな」と思うきっかけになるかと思いました。

(樋上委員)

放課後児童クラブに携わる者です。87 ページに今後のニーズや課題に対する項目が書いてありますが、第2期と大体同じ内容が書いてあり、今までも携わってい

る者からしたら東海市で変わったことを特に感じることもなく、また新しい計画も同じことの繰り返しにならないか心配です。箇条書きでわかりやすく、例えば「昼食をやります」と書いた方が市民もわかりやすいと思います。

(事務局)

具体的に「これをやります」というのは、ここには少し書きづらい内容ではあるためご理解いただきたいですが、具体的な部分はそれぞれの担当課等と詰めていく必要があると思っています。

(会長)

「放課後児童健全育成事業」が 76 ページの「仕事と子育ての両立と経済基盤安定を支援する」の主な関連事業等に入っていますが、国の動きで言うと居場所づくりにも位置付けているので、69 ページの「居場所づくりを推進する」に追加するとか、あるいは 70、71 ページの「豊かな体験や活躍の場を充実させる」に追加するといった工夫もあるかなと思いました。

(事務局)

その辺りは検討させていただきます。

(深谷委員)

「こども・若者オンライン意見箱」について、40 件とありますが、この事業はまだ続いていますか。

(事務局)

事業としては続いています。計画に載せるために、一旦 8 月で区切りました。

(鈴木委員)

小学校の教員の立場から言わせていただきますと、69 ページの居場所づくりの推進に書かれている施設には本当にお世話になっております。また、70 ページからの事業も子ども達も含め本当に市にお世話になっていることを実感しており、引き続きご支援いただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(宇野アドバイザー)

感想にはなりますが、こども計画ということで、幼児、小学生ぐらいまでのこどもの事が多く感じます。中・高・大学の事も入ってはいますが、少しわかりづらい

ので、中学生、高校生、大学生という言葉を入れるだけでイメージが変わり、よりわかりやすいと思いました。また、私は民間の「とまと食堂」で居場所づくりの一端を担っていますが、そういった民間の活動をしている人へのサポートの場や活動の支援をしている文面があればと良いと思います。

(川北委員)

こういう計画を若い世代にもアピールするのであれば、計画書に QR コードを載せるなどすれば、少しでも興味のある人はそこから欲しい情報にたどり着きやすいのではないかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。記載方法については、わかりやすくなるよう今後検討させていただきます。

(深谷委員)

オンライン意見箱については、学校の道徳などの授業の時にやることはできませんか。家にネット環境がないこどもでも投稿ができ、授業でやってもらう方が言いやすく、多くの意見が集まると思います。

(事務局)

授業は文部科学省から示された学習指導要領に基づき行っており、「市がアンケートを取りたいから授業でそれを実施しよう」ということは本来の教育をする目的とは、ずれてしまうところがあります。そういったところを鑑み、こども達への負担などバランスを取りながら検討していくものだと思います。

(宝達アドバイザー)

団体支援の関係で、市民活動センターで NPO の支援をされていると思いますが、そういうことの記載はありましたか。計画に載せていくと、一般の人が「じゃあ今からやろう」として見た時に「そういった支援があるんだ」ということがわかりやすくなるのではと思います。また、「ライフステージに応じた切れ目のない支援」について、切れ目のない支援はこれからもっと大切になってくると感じていますので、こどもの障害の有無に関わらず、相談機能や教育分野との引き継ぎ・連携を前向きに行っていく旨、どこかに明記してもらえよう一度検討していただければと思います。

(事務局)

記載内容については検討させていただきます。

(3) その他

(会長)

それでは全体を通して何か意見・質問ありましたらお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。それではないようなので、本日の議題は全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

(4) 閉会